

「計画」

大津市立石山中学校

令和8年度 我が校の学力向上策

【県目標】第Ⅲ期学力方向上滋賀プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

○第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

- 学校に関わる全ての人の「仲間力」を鍛え、安心・安全に学ぶことができる環境を作り、学力の向上を目指す

【現状と課題】

○視点1

(1) 学力・学習状況調査生徒質問紙の結果より、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という設問に対し、全国や滋賀県と比べてポイントが低くなっているため、主体的な学びにつなげる取組を引き続き進めていく必要がある。

(2) 学力・学習状況調査生徒質問紙の結果より、一人1台端末の利用状況については、全国平均と比較してポイントが低くなっているが、一昨年度よりも増えている。個別最適な学びを推進していくためにも授業等での活用を引き続き積極的に進めていく必要がある。

○視点2

学力・学習状況調査生徒質問紙の結果より、全体的に生活習慣が整い、規範意識が高い傾向が出ていた。しかし、将来の夢や目標について肯定的に答えている割合が低く、改善に向けての課題があることがわかった。校内研究で行う特活での取組を通し、学習するのに安心・安全な集団を作り上げる必要がある。

○視点3

本校の規模では、教員1人あたりが抱える校務分掌が多く、一つ一つに個人単位で熱心に取り組むと教員が疲弊していく現状がある。そのため、「子どもにつけさせたい力」を明確にし、PDCAサイクルをチーム石山で実践する必要がある。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①課題を見つけ、考え、発表する授業づくり	①学校でのいろいろな活動、体験学習、授業を通して、自分で考え、判断し、行動する力がついたと思いますか【学校評価生徒アンケート】目標：肯定的な回答80%以上
②学びを実感する授業づくり	①総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【学学調査・生徒質問】目標：肯定的な回答80%以上
	②先生は、授業でいろいろと工夫しわかりやすく教えてくれる。【学校評価・生徒】目標：肯定的な回答85%以上

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①特別活動における話し合い活動と主体的活動の充実	①クラスの話し合いに参加している。【校内研究アンケート】目標：肯定的な回答80%以上
	①学校をよくするために行動したい。【校内研究アンケート】目標：肯定的な回答75%以上
	①学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか【学学調査・生徒質問】目標：肯定的な回答80%以上

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①子どもを中心とした、学校・保護者・地域が連携した学校づくり	①生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか【学校質問紙】目標：肯定的な回答80%以上
	①保幼小中の連携が感じられ、校園と地域とが連携の取れた活動が推進されている。【学校評価・地域関係者】目標：肯定的な回答80%以上
	①家庭では、子どもとよく会話をし、学校の様子がよくわかっている。【学校評価・保護者】目標：肯定的な回答75%以上

◇「学力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・職員へ本校の「学力向上策」について説明し、全員に重点的な取組内容を意識できるようにする。また、ホームページやtetoru配信で保護者等へも周知し、保護者と教職員が丸となって子どもたちを育てる意識を高める。
- ・11月の学校運営協議会において、本校の「学力向上策」の説明を行い、学校や地域の役割を確認し合う。
- ・校内研究で特別活動の充実を目標とし、学期に1回教員で集まり成果や課題について話し合う。
- ・視点1については教務主任、視点2については生徒指導主事・校内研究主任、視点3については管理職、地域連携担当が中心となって、評価分析を行い、学校通信等で配信するとともに次の取組につなげる。